

## 1・コロナ禍における公民館の役割について

この2年に渡り新型コロナウイルス感染症拡大により、緊急事態宣言が発令されて公民館が臨時閉鎖され従来通りのサークル活動、講座実施もままならず、改めて公民館が果たす役割を再確認して進めることは、極めて重要なことです。

- ①・Wi-Fiの設置・環境整備の必要性  
順次分館にWi-Fiの設置。導入  
オンラインを活用した情報発信により、多様なニーズ、多様な人々に届けることが出来る。  
・対面の中にオンラインシステムを取り込み、未来の繋がりに向けて新しい学びを考える。
- ②・オンラインを活用した講座、・イベントの開催  
公民館に来なくても学べる機会をつくる。
- ③・コロナ禍における公民館利用者の意識調査を実施する。  
コロナ禍において市民の考え方は、大きく変化してきたと思われます。
- ④・市報への公民館だよりの掲載  
市報は市民への最大の情報源であり、公民館の果たすべき役割についてひろく社会に理解されるよう、公民館をPRすることが重要であり、積極的に情報発信する必要があります。
- ⑤・分館講座予算の使い方で、応募者の多い講座は、2度企画できるように柔軟性を要望します。

## 2・誰も取り残さないための居場所づくりについて

コロナ禍によりますます公民館の重要性が再認識され、誰でもふらっと立ち寄れる公民館であってほしいと多くの市民から期待されています。そしてオンラインの拠点として、多様な意見を吸い上げるシステムを求めています。

公民館は 地域社会の拠点としてコロナ化を乗り越えた先の未来を市民とともに作り出していく事を期待します。

具体的には 次のような事を提案します。

- ① 持続可能なまちづくりを作るうえでも、子どもから高齢者までさまざまな問題を話し合える機会と場所を設ける。特に弱者救済として声なき声を吸い上げる。デジタルに弱い高齢者、子ども食堂、学習支援、各種ハラスメントの相談、外国人との繋がりなどです。
- ② 自治会、商店会、学校、社会福祉協議会、企業、NPO 法人などのさまざまな団体とのネットワークをつくる。
- ③ 気楽に立ち寄れ、ゆっくりとくつろげてコミュニティーづくりが出来るフリースペースの充実とエレベーターなどのハード面の整備を要望をします。

### 3・事業企画委員会について

事業企画委員会は5年前市内各公民館に、市民講座の策定など地域コミュニティ創りの拠点として機能することを目的に設置されました。地域と継続的につながり、地域の意向を反映した公民館運営を目指しています。

#### 公民館を取り巻く環境

1. 利用者の減少と利用者の高齢化
2. コロナ禍における行動範囲の変化
3. 地域における市民の居場所づくりへの期待

#### 提言

##### <今後の課題認識>

- ・現状の事業企画委員会がその目的に十分機能できているか振り返りを行う
- ・利用者の年齢に偏らない幅広いテーマの必要性
- ・コロナ禍における運営方法
- ・地域のニーズの掘り起こし

##### <対策>

- ・事業企画委員会メンバーの属性や年齢・性別などによる構成バランスの見直し
- ・事業企画委員会の向上のため委員の研修や学習会の開催、待遇改善
- ・他館等との交流による情報の共有
- ・居場所づくりを意識した講座の企画開催（外国人含む）
- ・各公民館の地域性を考慮した事業企画の開催
- ・オンラインによる講座開催が可能な環境づくり（抽選漏れの解消）
- ・コロナ禍における認知予防講座やイベントの企画開催
- ・市民とのつながりを重視した出前講座や在室講座の企画開催
- ・学校、大学、企業、地域との連携事業の企画開催
- ・サークル化を意識した講座の策定